玖波中だより

No.9

大竹市立玖波中学校　令和５年１０月１６日

学校教育目標「自他を大切にし，主体的に考え行動できる生徒の育成」

発行責任者　小田　大介　　文責　藤川　健二

下瀬美術館に行ってきました

９月２１日(木)が悪天候のため，延期した社会見学を１０月１１日(水)に秋空のもと実施しました。下瀬美術館は今年３月に開館しましたが行ったことのない生徒も多く，ワクワクした気持ちで当日を迎えました。現在は「四谷シモンと金子國義～あどけない誘惑～」展が催されており生徒は，人形や油彩画，版画を食い入る様に見入っていました。また，展示室を出て望洋テラスに出ると正面に宮島，右手に大竹地区の工場群，左手に玖波地区の山並みが見え，その景色は圧巻でした。学校に帰った生徒に感想を聞くと「ぶち良かったけえ」「美術館に初めていきました」「望洋テラスからの景色が，やばかったあ」等，様々な感想を聞くことができました。

その日の様子を写真と感想で紹介します。

私の印象に残ったことは2つあります。1つ目は「天使～澁澤龍彦に捧ぐ～」という作品です。作品の後ろにあったているスポットライトの影がとても綺麗で普通の白ではなく，水色が混ざった白でした。2つ目は「ラ・セーヌ・ミュジカル」という模型です。とても小さくて，中まで人が立てられていました。

前回は，雨が降って行けなかったけど，今日は晴れて，みんなで行けたのでとても良い思い出になりました。

今日は下瀬美術館に行きました。縦割り班に分かれて美術館の中を回りました。他の学年の人たちと交流することができ，いろんな考えを聞くことができました。回った中で一番印象に残ったことはガレの庭です。植えてある花やガレの使った植物を見つけていくのが楽しかったです。また，周りにある山や海も綺麗で大竹は自然の豊かなところも良いところであることを再認識しました。

今日は貴重な体験ができました。下瀬美術館から見える海やエミール・ガレの庭の花がとても綺麗で見入ってしまうほどでした。作品も，人形や版画など様々なジャンルがあって見ていてもとても面白かったです。ここに来たことで，美術館や作品に興味を持つことができました。下瀬美術館だけではなく，他の美術館にも足を運んで美術について勉強してみたいと思いました。

本物にふれるとは？

本物（作品）にふれる経験は自ら行動するか，今回の社会見学のように人から与えられるかしないと一生できないことかもしれません。本物（作品）は，本物にふれた人（制作者）の本来の姿を思い浮かび上がらせる力を持ち，その本物（作品）にふれることができると，自尊感情を高めることができると言われています。

また，昨今では，情報技術が発達し，ディスプレイを通して見ることもできますが，決して本物とはいえません。本物にふれるというのは，何も今回の美術作品の観賞に限らず，演劇鑑賞，音楽観賞，スポーツ観戦，茶道・華道を体験してみることも本物にふれるといってもいいでしょう。本物は人に大きな刺激を与え，感動だけではなく，新たな気づきと意欲をもたらすのです。そういう意味では，先日行われた玖波祭りに参加した皆さんも本物にふれることができた良い機会だったかもしれませんね。